

ピアホームだより

2024. 3. 10

日常診療から

Aさんは、自分の病気に対し、真摯に向き合い治療に対する関心が高い方です。薬剤情報をしっかり把握し、薬剤師の私に鋭い質問をして来ます。

ホームという現場で、抗精神病薬ばかりでなく、様々な疾患の様々な薬物療法に出くわします。

現役薬剤師を離れ10数年、各領域で新しい機序の薬剤が出てきました。日常的に触れる機会が薄れ、どうしても最新情報に疎くなっている自分に、利用者さん達が良い刺激・問いかけをしてくれているようです。そんな事例を3点あげてみたいと思います。

1 腰痛に使う鎮痛剤は？

痛みに対しては、アセトアミノフェン・NSAID（進化系の選択的シクロオキシゲナーゼ阻害薬は胃腸障害が少ない）→非麻薬性オピオイド→オピオイド（麻薬系）の順に使用するよう医療用麻薬適正使用ガイダンス（厚生労働省）にもあります。腰痛で受診した利用者がいきなりツートラム（オピオイド）が処方され、不安になり質問がありました。オピオイドの副作用—依存性、呼吸抑制には注意が必要であり、アメリカでは濫用の社会問題も起きているようです。ステップを踏んだ処方をされたいものです。

2 アトピー性アレルギー疾患治療薬

アトピー性皮膚炎治療は『薬物療法』、保湿剤を用いるなどの『スキンケア』、生活環境の改善など『悪化要因の除去』の3本柱です。現在でも『薬物療法』のファーストステップはステロイドやタクロリムス軟膏などを用いた治療です。

新たな治療薬

生物学的製剤：炎症性サイトカインが細胞に付着するのを直接的に抑える→デュピクセント

JAK 阻害薬：炎症性サイトカインのシグナル伝達に必要な JAK(ヤヌスキナーゼ)という酵素の働きを抑える

PDE4 阻害薬：炎症性サイトカインの産生を抑える cAMP という物質を分解してしまう PDE4 という酵素の働きを抑える

デュピクセントの画期的効果が報告されていますが、使用にあたって条件があり、医師とよく相談してください。

3 飲酒に対する薬物療法

多くの障害者で、アルコール問題が生じます。金銭的に豊かではありませんから、いわゆるアルコール依存に至るのは少数派かもしれませんが、社会的・金銭的な問題を引き起こすことが多くあります。依存症の場合は本人の意思をもって嫌酒剤と自助グループへの参加が必要です。近年、セリシクロ（オピオイド受容体拮抗薬）、レグテクト（断酒補助薬・グルタミン酸受容体）が発売されました。試みる価値があるように思います。

3月の予定

3月9日：理事会開催